



# まちのフケツチ



5/25

## 琵琶湖の風を受け舞い揚がる 2014東近江大凧まつり

100畳敷の大凧が空に舞う「2014東近江大凧まつり」が東近江市ふれあい運動公園で開催され、約130人の引き手が6回の飛揚に挑戦。最大48mの高さまで舞い揚げ、約1分間の飛揚に成功すると、引き手と観客から歓声が沸き起こりました。



今年の100畳敷大凧は、「ふれあい」をテーマに3年ぶりに新調されたもので、図柄に語呂を合わせて意味をもたす東近江大凧の特長の「判じもん」は、向き合う「燕」と繋という文字をあわせて「縁(燕)あつて繋がる」となります。

6/8

## 戦跡をめぐる平和について考える 消えた飛行場～八日市飛行場物語～

本市の歴史に埋もれた資産を再発見してもらおうと、陸軍八日市飛行場と周辺戦跡をめぐる着地型観光が一般社団法人東近江市観光協会の主催で実施され、県内外から44人が参加しました。

一行は、<sup>おきほろ</sup>沖原神社に残された陸軍飛行隊兵舎の門柱をはじめ、御園小学校にある<sup>だんごん</sup>弾痕が残る石、石谷町にある殉国の碑などを見学。参加者は熱心にメモを取り、写真に収めていました。また、飛行機を空襲から守るために造られた<sup>えんたいどう</sup>掩体壕の見学では、やぶの中から現れたコンクリート造りの大きな姿に「すごい」という声があちらこちらから上がっていました。

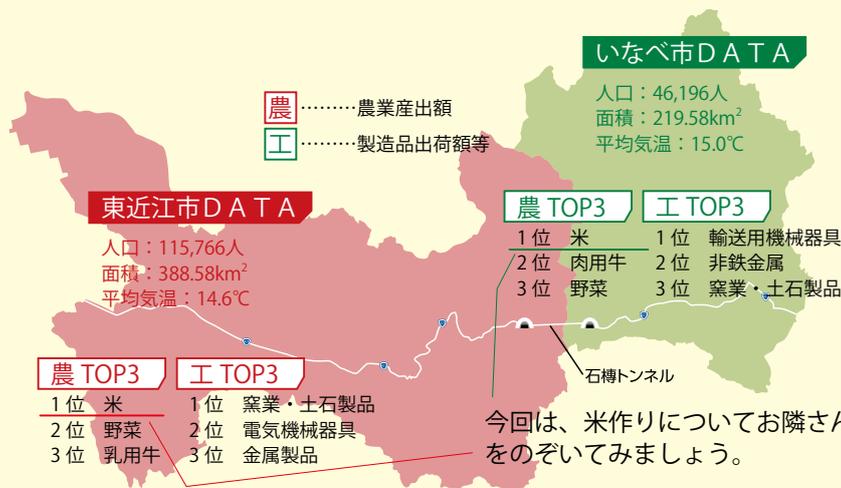


### 新コーナー 東近江市&いなべ市

## おとまりさん

石榑トンネル開通(平成23年3月26日)から3年。古くから江勢道と呼ばれ栄えた街道は、時を超え新たな交流の要となっています。

このコーナーでは身近な話題から両地域を比較し、共通点や違いを紹介していきます。

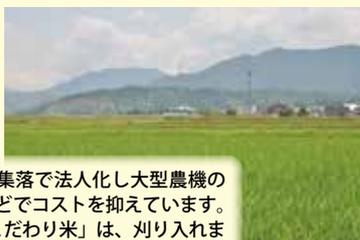


今回は、米作りについてお隣さんをのぞいてみましょう。

## HIGASHIOMI

鈴鹿山系と琵琶湖、双方から水の恵みを受けた肥沃な大地には、滋賀県で開発された高温に強くおいしい新品種「みずかがみ」が昨年から植えられています。「環境こだわり米」として農業や化学肥料を削減して人にも琵琶湖にもやさしい米作りが進められています。

農事組合法人 市原地区布引 営農組合長 岡崎和夫さん



周辺8集落で法人化し大型農機の導入などでコストを抑えています。「環境こだわり米」は、刈り入れまでの苦労はありますが、それだけに良質な米が収穫できます。



## INABE

いなべの米づくりを支える員弁川は、石灰石の採掘が行われる藤原岳が水源です。石灰層でろ過された清流が美味しいお米の源。コシヒカリ、キヌヒカリ、ミルキーQueenなどの銘柄が植えられています。

地形の特徴から小規模の農家が多いですが、その工夫をしています。私のところも微生物のぼかしを使い農業を控え、苗の間隔を研究し、粒が大きく味の良い米を作っています。



みずほのおかげ市場 日菜喜広幸さん

